

711V-31

書叢邊爐

312

1466

方言採集手帖

東條操編

(府)縣

地方

方言

郷土研究社發行



始



特 200
96

方言採集手帖

東條操編

郷土研究社發行



各位に

著者より

この手帖は方言の採集と記録との便利を考へて編纂したものです、最初に記入に關する注意を記しました、是非御一讀を願ひます。

方言の調査には單語と語法と音韻と、この三方面の何れを缺いても完全な調査とは申されません、然るに従來の方言研究はあまりにも單語専門であつたやうです。この手帖の終りに五十音圖と文例とを加へたのは、音韻と語法との材料を集める爲です。なほ附録として音韻語法の調査方法を略説したものを載せておきました。

本欄の單語集については保科先生の方言採集簿から教へられた處が少からずありました、又人事と年中行事とについては柳田國男先生から材料を頂戴しました。兩先生に御禮を申し上げます。

昭和二年十二月 静岡にて

扉の記入につき

中央に調査した方言の地方名を「府縣、郡市、町村」の順で記入する。

右には調査者の「氏名」と「出生地」と「調査時日」と「調査地名」とを記入する。

調査地名は、親しくその地方に向いた場合には「同地に於て」と記す。又東京で名古屋方言を調べたやうな場合には「東京に於て」と云ふやうに記す。

左には方言の材料を供給して呉れた人、即ち話手を記入する。

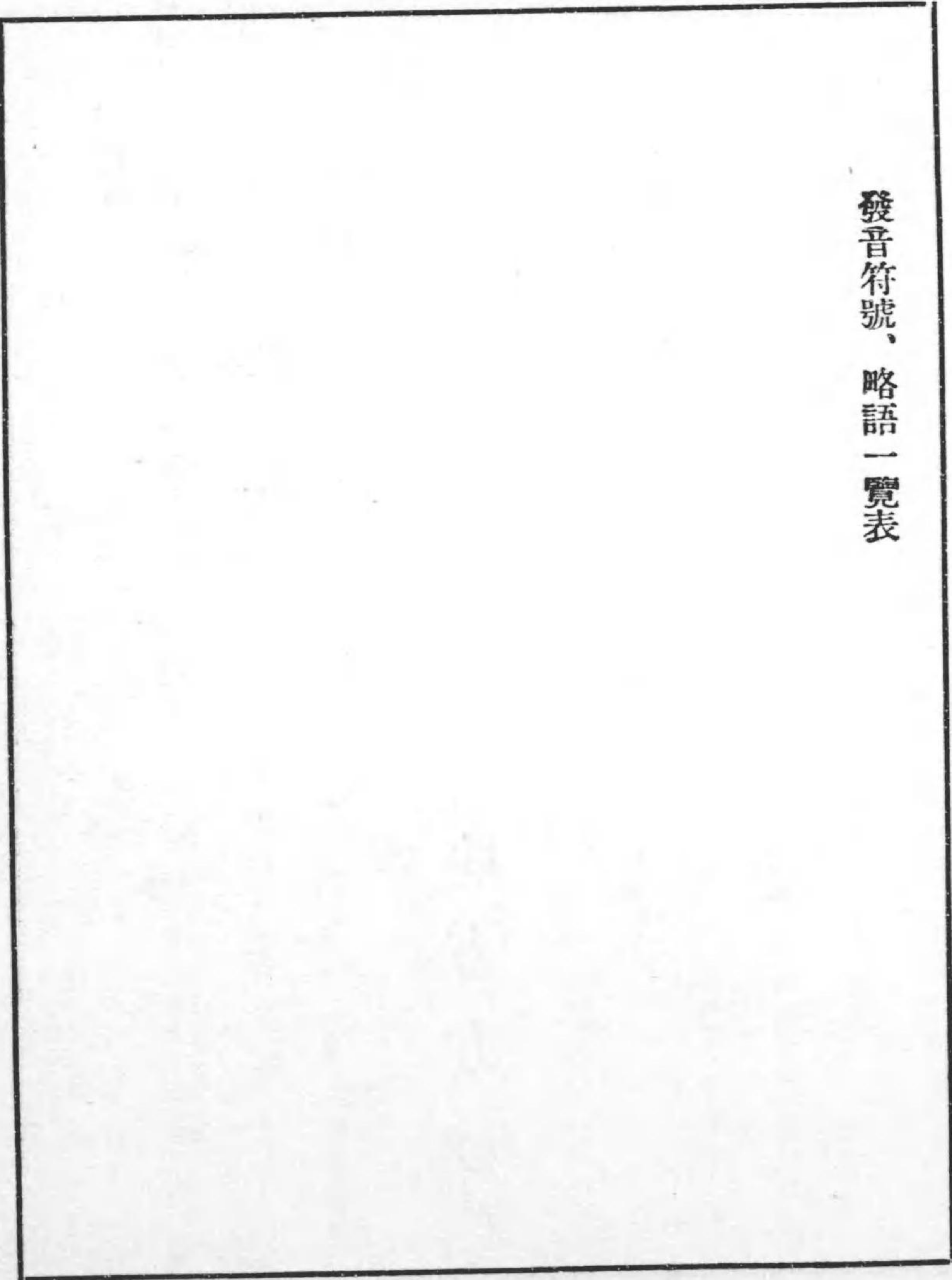
その形式は「氏名、年齢、男女別、職業、出生地」(例へば 田中フサ、廿八才の女、農、A村生)の順序に記す。数名にわたる時も同じ形式で連記する。

調査者が同時に話手なる場合、即ち生國の方言を自分が思ひ出して記録するやうな場合には單に「調査者と同人」と記せばよい。

書物から材料を得て記録する場合は話手の欄に「書名、著者、著作年月、所藏者等」を記す。

| | | |
|------|-----|-------|
| 調査者 | 年 月 | に於て調査 |
| 地方方言 | | |
| 話者 | | |

發音符號、略語一覽表



目次

調査地方圖と縣内方言區劃圖……………一

方言の表記法……………五

單語の調査……………八

單語集の記入法……………二二

本欄

單語集

名詞天文(一)——地理(一一)——動物(二三)——植物(三四)——
 人倫(四三)——肢體(五七)——住居(六九)——飲食(八七)——
 服飾(九七)——生業(一一一)——人事(一二九)——年中行事(一四三)。

代名詞(一五九)——形容詞(一六一)——動詞(一八一)——雜詞(二二一)。

五十音圖……………二四

| | | |
|----------|-------|-----|
| 方言文例 | …………… | 二四 |
| 當地方方言の特徴 | …………… | 二六〇 |
| 附 録 | | |
| 方言採集の準備 | …………… | 一 |
| 音韻の調べ方 | …………… | 三 |
| 語法の調べ方 | …………… | 三 |

調査地方圖と縣内方言區劃圖

調査地方圖 この地圖には交通線(道路鐵道等)と主要町村を記入し、朱線と矢印で調査者の足跡を示し、之に日時をも記しておく。

之によつて、その地方の調査町村と未調査町村とを明示する事ができる。

地勢などの記入も簡單に加へておけば猶一層便利であるが、圖上の混雜は避けたい。

縣内方言區劃圖 調査地方の區域の廣狹に拘らず、その縣内の方言區劃圖を作りたい。

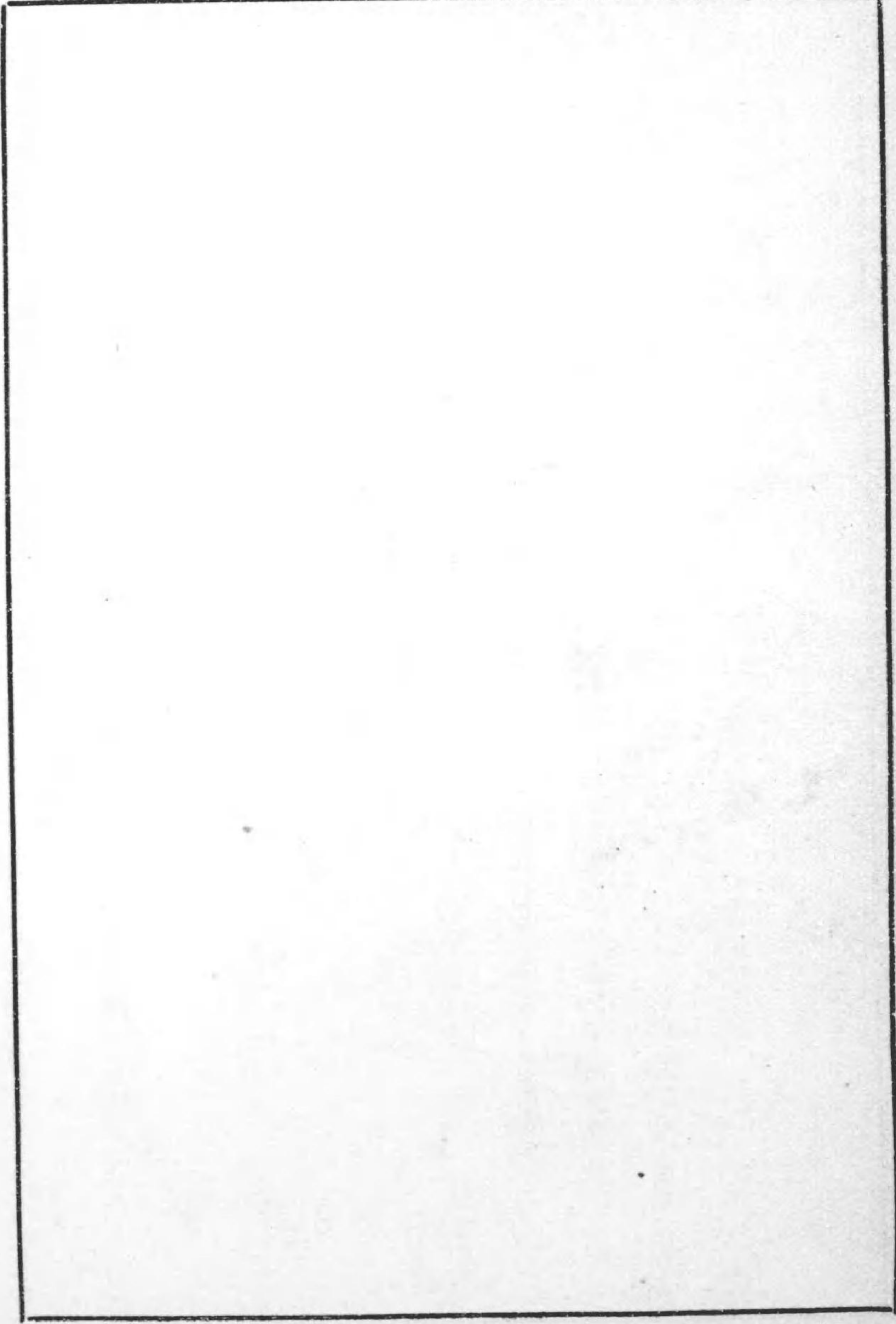
色別などにすれば一層よい。之によつて調査地の方言が縣内に占める位置が明瞭となる。

萬一、區劃の境界などが判然しない爲に製圖の困難な場合には、せめて、縣内方言區劃表でも作りたい。

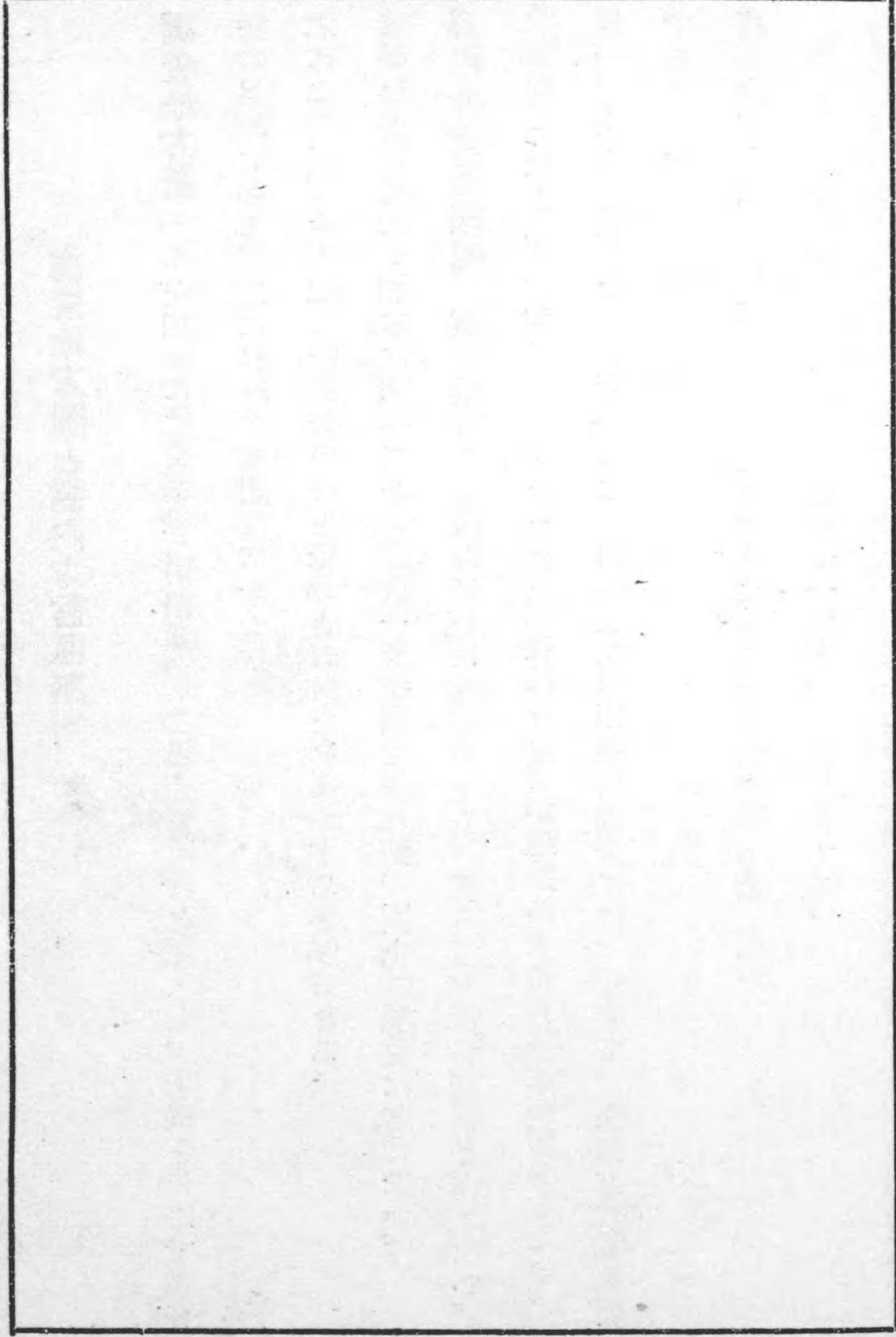
舊幕時代の大名領地などの配置も分るならばその配置圖も欲しい。

以下の三頁の餘白はそれらの地圖や一覽表の用途にあてる。

地圖



三



11

方言の表記法

方言記録の價値の半分は、表記法の正否にかゝつてゐる。即ち、表記法が完全なら方言はその發音は勿論、音調までも、讀者に原音のまゝで再現してくるべき筈である。

こんな理由から表記に使ふ文字には萬國音標文字を理想として推奨する。(市河三喜氏著、萬國音標文字、光風館發行、參照)しかし、この文字に慣れない採集者の爲には假名の使用をすゝめたい、ローマ字は中途半端であまり感心しない。

假名の使用については次の二ヶ條に注意していただきたい。

一、標準音(東京音)と同じ發音は、片假名で寫す。但し發音通りに寫し、所謂假名遣に拘泥しない事。

二、標準音にない音は、類似音を表はす平假名で寫す。この平假名で代表させる音の性質は別に細かく説明する事。

この中で、特に注意すべき事は、口で云ふ通りに書くと言ふ事である。

例へば東京語で「女は今日田舎へ歸つた」と云ふ時は之を寫音して
オンナワ、キョー、イナカエ、カエッタ。

と表記する。よほど注意しないと助詞即ち「てにをは」や「動詞の語尾」は舊來の假名遣に因はれやすい。又この表記の中に漢字は絶対にまぜてはいけない、之も「數字」は不注意からよく混ぜる事がある。

以下、假名の表音法につき、本書の約束を述べて置く。

一、拗音は「シャシン」(寫眞)「シューシン」(修身)「クワジ」(火事)のやうに寫す。
(「クワ」は標準音と見なす)

二、促音は「リップバ」(立派)「コッチ」(此方)「ガッコウ」(學校)「イツシン」(一心)のやうに寫す。

三、長音は「サトー」(砂糖)「メープツ」(名物)「イコー」(行かう)のやうに寫す。

四、鼻音は「シンバイ」(心配)「ギンナン」(銀杏)「ギンコー」(銀行)のやうに寫す。
東京語の「馬」の如きも「ンマ」と寫す。

五、アクセントは右側に線を引いて、その所在を示す。東京語ならば

ハシ(橋) ハシ(箸) ハジ(端)

最後の例は所謂アクセントの無い言葉である。

六、東京語の語中に現はれる「鼻にかゝる加行濁音」は ガギゲゴ で寫す。

ゴンゴ(五合)

七、東京語の「佐行多行濁音の以段と字段の音」は、一種の特別な音となつてゐるが、便宜上、「ジ」「ズ」で寫す。

ジシン(地震) チズ(地圖)

東京音に無い音は前に云つた通り類似の平假名で表す。

モツ(餅) ひカリ(光) ミヅ(水)

や Mots, Fikari, Midu の方音を寫す如きはその一例である。此場合には使用平假名とその音價を扉の裏の發音符號表に列擧する事を忘れてはならない。表記法の秘訣は全冊を通じ嚴密に一音一字、一字一音主義で一貫する事にある。

單語の調査。標語欄と補充欄

ある地方に行はれてゐる言葉は之を次の三種に分けてみる事が出来る。

第一、標準語と同形のもの。例 (田螺) タニシ

第二、標準語の訛れるもの。タノシ

第三、標準語と別系のもの。タツボ

この書では第二種を訛語と云ひ、第三種を方語と云ひ、第一種乃至第三種を總稱して方言と云ふ事にする。

方言を調査するに、第一種の語を棄て、訛語と方語だけを目當とする事は純理から見て正しい方法でない、こんな調査からは、標準語の配布状態や、地方によるその勢力の消長を明かにする事が出来ない。しかし、多くの方言集には第二種、第三種だけを集録してある、之は權道であるが頗る便利な方法である。地方の言語を網羅するとなると(それは正しい方法ではあるが)一地方が皆、言海大の辭書を持たねばならない事となる。

本書の如きも小冊子であるから方語と訛語との集録を、大體の目安としなければならぬ、けれど一方、標準語を全く捨てる事も残念である、そこで二つの欄を設けた。

標語欄。 全国で變異の多い語と重要な語と思はれるものを集め標語とし單語集各頁の上半に配置した。この標語の側に記した片假名は東京語である、(中に記入のないのは東京語のないものである)。

第一、調査者は片假名のもと同語の有無を調べ、無い場合にはこの片假名を抹消する。

第二、訛語の有無を調べ、訛語あらば之を記入する。

第三、第三種の方語を記入する。

勿論、地方によれば一標語につき一語しか行はれて居ない場合もあらうし、また數語の併用されてゐる場合もあらう、併用の場合には、その新古の別、勢力の多少の差をも記したい。

例、田螺 タニシ(少)(新)、タノシ、タツボ(多)(古)。

補充欄。 單語集各頁の下半は空欄として標語以外の主要な方言の記入用に充て、之を補

充欄とする。本書の標語は数が少い、之を補足しその地方の主要な方言を網羅するのが目的である。この場合、標語以外の單語を思ひ出す事は、かなり面倒である、欄外に掲げた細字の單語は之を思ひ起す鍵にすぎない。

調査者は想ひ起した主要な方言で補充欄を埋めて行く、しかし限りある欄内に無数の語を盛る事は不可能である。そこには語の選擇の標準が入用となる。

補充欄には先づ、**第三種即ち方語**を記入したい。なほ、餘白のある場合に**第二種即ち訛語**を採録する。

之を大體の標準としたい。かうすれば小冊子ながら特色ある方言はほゞ集成する事ができよう。欄外の單語はほんの手引にすぎないから之に拘泥せず廣く集めていたゞきたいと思ふ。標語欄と補充欄とはもとより相待つて完全となるものであるが、編者は標語欄を特に重く考へて居る、是非とも標語は一語の洩れなく完全な記入をしていたゞきたい。

標語欄の記入が長くなつた時に補充欄まで書下す事などは差支ない。

又標語の地方的變化だけを見たい場合には補充欄を全部利用し、兩欄を横線で適宜

に分ければ一覽表やうのものにもなる。それらは使用者の工夫で色々な利用法があらう。(記入例の二、参照)

單語集の記入法

單語の記入法は完全に云へば、

發音、(アクセント)。品詞別、(活用)。意義、(挿圖)。用例。語原、(古語、外來語との關係)。

等の外に

使用區域。使用者(身分、性、年齢)。語の新古。語の勢力。

等についても記さなければならぬ。(尤も標語欄では標語、方言……の順序になる。補充欄では方言、東京語又は意義……の順序が便利であらう。)

しかし、一々の語に就て悉く以上の要項を記さうとすれば徒らに煩雜となるばかりであるから適宜に取捨してよい。何より記して置きたいのは、使用區域と使用方法である。

使用區域。 調査區域の全體に行はれる言葉は記載を省いてよい。一部に行はれる場合には「南部」とか「東部」とか記す。理想的に云へば、略符でも地名を掲げる事である。

使用方法。 動詞や形容詞や副詞などは是非、用例がほしい。この用例は全文、方言で記して難解の時には譯文をつけてもらひたい（此の爲には補充欄を利用してよからう）。

名詞なども特殊な用言と呼應するものなどは勿論、用例がほしい。

ナイガフル（地震がある）

ジルイミチ（ぬかるみの道）

トテモデッカイ（頗る大きい）

その他の事項。 極めて顯著なものだけについて次の記號を使用したい。

使用者につき

○身分、（上）上流社會だけに用ゐられる語

（下）下流社會だけに用ゐられる語

其他、農、工、商、漁、樵等

○性（男）（女）

○年齢（老）（兒）

語詞につき

○傳來（新）（古）

○勢力（多）（少）（稀）（廢）

○待遇（敬）（卑）（罵）

その他、必要に應じて適宜の略符を使用してよい、此等の新定の略符は巻頭、扉裏の略符表に掲げる。

兒童語と廢語とはなるべく多數集め、必ず、その旨を註記する事が必要である。

單語集には、餘白に「方言の五十音索引」と「標準語より引く五十音索引」をつけて置くと便利である。

單語集記入例の一

| | | | |
|-------------------------------|-----------------|-------------------------------------|-----|
| 月 <small>ツキ</small> (少)。 | オツキサマ(多) (殊ニ女)。 | アトサン(農) (A村) (癡)。 | 三日月 |
| 虹 <small>ニジ</small> (抹消) | 「ネジガタツ」虹が出る | アオネジ <small>(挿圖)</small> (漁) (B村) | 弦月 |
| 梅雨 <small>バイウ</small> (少) (男) | | 春季、降雨ノ前ニ水平線ニ近ク雲ノ如ク現ハルル青色ノ雲氣 | |
| 起る <small>オキル</small> | 「ハヨオキレ」早く起きよ | ネマル <small>(挿圖)</small> (ラ行四段) (多)。 | |
| | | 安座する | |

記入例の二

| | | | | | |
|--------------------|--------|-------|--------|--------|----|
| | A 村 | B 村 | C 村 | D 村 | |
| かたつむり [×] | カエツブリ。 | ダエロ。 | マエマエ。 | マメクジ。 | 玉虫 |
| なめくじ | ナメクジ。 | ナメクジ。 | マメクヂラ。 | マメクジリ。 | 虻 |

(以上の記入は假設にて實例にあらず)

第一天文

この部には天體、氣象、天候等に關する名稱と曆時等の名稱をも便宜併せてある。天文に關する語彙は海岸地方に發達してゐる、星の名、雲の名、風の名の如きは漁師の口から豊富に採集する事が出来る。

風位の方言を集める場合には、方位ばかりでなく、季節や天候等の關係をも調べる必要がある、即ち「五月頃の雨を伴ふ東風」と云ふやうな注意が必要となる。

北國には氷や雪の種類について方言が發達してゐる。

天體の日月星については之を神佛視した名稱や、「オホシサマ」のやうに敬稱を加へる地もある。兒童語にその傾向が多い。

曆時の中では明々後日(シアサッテ)と明々々後日(ヤノアサッテ)に地方的變異が多い。

標語欄

片假名デ示シタノハ東京語デス、
コノ形ヲ使用シテ居ナイ地方デハ
抹消シテ下サイ。

補充欄

下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
タダケデス、之ニ拘泥セズ特色アル
方言ヲ補充シテ下サイ。

天^{テン}

太陽^ヒ

月^{ツキ}

星^{ホシ}

北極星^{ホツキョクセイ}

北斗星^{ホクトセイ}

明星^{メイジョウ}

青日出空 朝日 夕日 三日 弦月 滿月 月蝕 流星 彗星 參星 すばる星

銀河^{アマノガハ}

旗雲^{ハタクモ}

入道雲^{ニコドクモ}

電^{イナビカリ}

雷^{ライ}

夕立雨^{ユイダチ}

虹^{ニジ}

梅雨^{バイウ}

時雨^{シグレ}

雨雲 鱗雲 黑雲 風雲 亂雲 卷雲 落雷 朝焼 夕焼 驟雨 霖雨 日照 雨降 霰降

| | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|---|---|---|---|
| 氷 <small>コ</small> <small>リ</small> | 氷柱 <small>ツ</small> <small>ラ</small> | 天候 <small>テ</small> <small>キ</small> | 晴天 <small>ハ</small> <small>レ</small> | 曇天 <small>ク</small> <small>モ</small> <small>リ</small> | 雨天 <small>ア</small> <small>フ</small> <small>リ</small> | 旱魃 <small>ヒ</small> <small>デ</small> <small>リ</small> | 洪水 <small>オ</small> <small>ミ</small> <small>ズ</small> |
| | | | | | | | |
| 霞 霧 濃 霧 霜 淡 綿 大 霰 雨 霧 雪 雪 雪 | | | | | | | |

日 月 開 雨 星 雪 出
 和 夜 夜 空 空 水

| | | | | | | | | |
|---|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|-------------------------------------|---|---|--|
| 小雨 <small>コ</small> <small>サ</small> <small>メ</small> | 霧 <small>キ</small> <small>リ</small> | 蜃氣樓 <small>シ</small> <small>キ</small> <small>ロ</small> | 露 <small>ツ</small> <small>ユ</small> | 霜柱 <small>シ</small> <small>モ</small> <small>シ</small> <small>ラ</small> | 雪 <small>ユ</small> <small>キ</small> | 吹雪 <small>フ</small> <small>ブ</small> <small>キ</small> | 雪崩 <small>ナ</small> <small>ダ</small> <small>シ</small> | 霰 <small>ア</small> <small>ラ</small> <small>レ</small> |
| | | | | | | | | |
| 霰 霧 濃 霧 霜 淡 綿 大 霰 雨 霧 雪 雪 雪 | | | | | | | | |

霞 霧 濃 霧 霜 淡 綿 大 霰
 雨 霧 雪 雪 雪

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|-----------------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------------|---------------------------|-------------------------|
| 午前十時頃 | 朝 <small>アサ</small> | 曉 <small>アケガタ</small> | 明晩 <small>ミヨイバン</small> | 昨夜 <small>ユイベ サクヤ</small> | 今夜 <small>コンヤ</small> | 明々後日 <small>シアサツテ</small> | 明後日 <small>アサツテ</small> |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | 薄明 明朝 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|-----------------------|----------------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|
| 翌日 <small>アケルヒ</small> | 明日 <small>アシタ</small> | 一昨々日 <small>サキオトトイ</small> | 一昨日 <small>オトトイ</small> | 昨日 <small>キノイ</small> | 今日 <small>キノイ</small> | 來月 <small>ライゲツ</small> | 先月 <small>センゲツ</small> | 今月 <small>コンゲツ</small> | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 昨朝 | 今朝 | 明夕 | 昨夕 | 今夕 | 黄昏 | 丑滿 | 明後晚 | 一昨々夜 | 一昨夜 | 晦日 | 朔日 | 下旬 | 中旬 | 上旬 | 再來月 | 先々月 | 冬月 | 秋月 |

| | |
|--------------------------------|--|
| 晝 <small>ヒル</small> | |
| 正午 <small>マヒル シヨウゴ</small> | |
| 午後三時頃 | |
| 夕方 <small>ユイカタ</small> | |
| 夜 <small>ヨル</small> | |
| 夜半 <small>ヨナカ</small> | |
| 終日 <small>イチニチジヨウ</small> | |
| 終夜 <small>ヨツシ ヨドイシ</small> | |

第二地理

この部には山岳、平野、海岸、海洋、河流、湖沼等に關する名稱、道路、用水、水路の名稱、及び金石礦物の類と、外に方位名を便宜上併せてある。

云ふまでもなく山地、海岸には地形によつて特別な名稱が發達してゐる。この地理に關する名稱と地名との關係を等閑視してはならない。

或地方の特殊の地名を注意して記録すると、時に豫想外の方言の發見がある。

地名を表はす漢字も注意して觀察しなければならぬ。「塙ハナツ」「埜ノ」の類を初めとして面白いものが多い。

柳田先生の地名雜考などを參考すると得る所があらう。

標語欄

片假名ヲ示シタノハ東京語デス、
コノ形ヲ使用シテ居ナイ地方デハ
抹消シテ下サイ。

補充欄

下ニ舉ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
タダケデス。之ニ拘泥セズ、特色
アル方言ヲ補充シテ下サイ。

嶺 ミネ

山頂 イタダキ
サンチヨ

峠 トウゲ

坂 サカ

山腹 サンブク

山麓 フモト

崖 ガケ

連山 孤峯 山越 乘鞍部 雪谷 峽橋 吊橋 丘陵道 崖道 谷道 丸木橋

洞穴 ホラ

棧道

谷 タニ

澤 サワ

平原 ハラ

濕地 シツチ

沼地 ヌマチ

石地 イシジ

砂地 スナジ

草原 不毛地 赤土墾地 開墾地 町村境 町村捨場 馬捨場

| | | | | | | | |
|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|---------------------|
| 砂 <small>スナ</small> | 泥 <small>ドロ</small> | 北 <small>キタ</small> | 南 <small>ミナミ</small> | 西 <small>ニシ</small> | 東 <small>ヒガシ</small> | 下 <small>シタ</small> | 上 <small>ウエ</small> |
| | | | | | | | |
| 岩石小 石 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|---------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|
| 右 <small>ミキ</small> | 左 <small>ヒダリ</small> | 地震 <small>ジシン</small> | 海瀟 <small>フナミ</small> | 防波堤 <small>ボウハテイ</small> | 海峡 <small>カイキョウ</small> | 干潮 <small>ヒキシオ</small> | 満潮 <small>マンチョウ</small> |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

土ツチ

粘土ネバツチ

明礬ミョウバン

硫黃イオウ

石炭セキタン

石油セキユ

浮石カルイシ

化石クワセキ

珊瑚サンゴ

赤土

銀

鐵

眞銀

水銀

鉛

錫

燧石

花崗岩

大理石

水乳石

鐘乳石

鐘乳石

特殊ナル地名

漢字振假名付ニテ記スベシ

地理

一一

110

方言書目抄

東北地方

東北方言集 仙臺稅務監督局 大正九、刊

仙臺市東北印刷會社發行(金二圓)

青森縣方言訛語 青森縣廳明治四一、刊(非賣)

秋田縣方言音韻及口語法 大山宏、明治四四、

秋田中學校校友會雜誌別冊(非賣)

莊內方言考 黒川友恭 明治二四、刊(絶版)

米澤言音考 内田慶三 明治三五、刊(絶版)

遠野方言誌 伊能嘉矩 大正一五、刊

爐邊叢書 郷土研究社發行(金八十錢)

仙臺方言考 伊藤齋助 大正五、刊(絶版)

仙臺方言集 土井八枝 大正八、刊(絶版)

仙臺方言集 (仙臺叢書第八卷)大正一四、刊

仙臺市、仙臺叢書刊行會(非賣)

松前方言考(寫本九冊) 嘉永元、帝國圖書館藏

濱荻(寫本)(莊內方言) 明和四、慶應大學圖書館藏

杜陵方言考(寫本) 學習院圖書館藏

津輕方言考 松平圓次郎 帝國文學七卷一號

秋田方言 湯澤幸吉郎 國語教育一二卷八號

莊內文典 三矢重松 木 鐸

仙臺方言音韻組織 小倉進平 國學院雜誌 一六卷三號

第三 動物

第四 植物

動物は野獸、家畜、鳥類、魚類、蟲類の順に排列し、植物は喬木、灌木、草本、五穀、蔬菜の順に排列した、果實は蔬菜の下に收めてある。

動植物の標語は學名でかゝげる事が最も正確であり、他の名稱を以てしては如何なる方法によるも誤解を全然避けると云ふ事は出来まい。

しかし、學名は正確であつても一般的でないから、止むを得ず、東京語の習慣による呼稱を採用する事とした、従つて此部は標語を平假名で標出し、二三の例外を除いては更に片假名で東京語を掲げる事をしない。(漢字は誤解される恐があるので避けた)

動物植物には兒童語が多い、従つて一物にして多數の呼稱をもつてゐる場合が少くない。又「ウシメ」「アリンコ」のやうな特殊な接尾語もよく使はれ勝である。

蛇、蛙、蝶、蜻蛉の類、豆、瓜、菜の類は種類が極めて多い、補充欄で補充していただきたい。

標語欄

平假名ノ名稱ノ行ハレテ居ナイ地
方ハ肩ニ×印チツケルコト、平假
名ハ東京語デス。

補充欄

下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
タダケデス。之ニ拘泥セズ特色ア
ル方言ヲ補充シテ下サイ。

けだもの(ケモノ)
獸

いのしし

しか

さる

きつね

ねずみ

もぐら

鬣 蹄 尾 毛 角 牙 爪 狼 熊 狸 鼬 蝙蝠 羊 山
な じ 蝠 羊

かわうそ

うし

おうし

めうし

こうし

うま(ウマ)

おうま(ウマ)

めうま(ウマ)

こうま(ウマ)

鞍 轡 手

綱

黒 三 洋 牡 牝 猫 犬
毛 犬 犬 犬 犬

| | | | | | | | | |
|------|------|-------|-----|-----|----|-----|--------------------|-----|
| よしぎり | きつつか | ほととぎす | すすめ | つばめ | はと | ふくろ | と ^{トシビ} ひ | からす |
| | | | | | | | | |
| 鶺鴒 | 鶺鴒 | 山鶺鴒 | 雉 | つぐみ | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 |
| 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 |

| | | | | | | | | |
|-----|-----|------|-------|----|-----|----|----|----|
| あひる | ひよこ | にわとり | とり(鳥) | | うさぎ | いぬ | ねこ | ぶた |
| | | | | | | | | |
| 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 |
| 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 | 鶺鴒 |

| | | | | | | | | |
|----|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|------|
| かに | めだか | はせ | うなぎ | にしん | ふぐ | ひらめ | かれい | まぐろ |
| | | | | | | | | |
| 水 | 赤 | 浅 | 蛤 | 鮑 | 鱈 | 太 | き | このしろ |
| 母 | 貝 | 蛸 | | | | 刀 | す | 魚 |
| | | | | | | | | 鯛 |

| | | | | | | | | |
|-----|----|-------------------------|---|-----|------|-------|------|-----|
| かつお | さけ | うお <small>(サカナ)</small> | | ひばり | せきれい | みそさざい | かわせみ | かもめ |
| | | | | | | | | |
| 鯛 | 鮫 | 鰻 | 鱈 | | | | | 千 |
| | | | | | | | | 鳥 |
| | | | | | | | | 鳥 |

| | | | | | | | | |
|-----|--------------------------------|------|-----|------|----|-----|-----|-----|
| たがめ | まいまいむし <small>ミズスマシ</small> | あめんぼ | しらみ | くものす | くも | あり | みみず | ばった |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | げんごろう | | | | | 蟻地獄 | | |

| | | | | | | | | |
|------|------|------|----|----|------|-----|-----|-------------|
| いなご | こーろぎ | かまきり | せみ | はち | とんぼ | かいこ | けむし | ちヨイチ ちヨイ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| ざいむし | うんか | | | | 蚤蛆蠅 | 蚊油 | やすで | 百響機 |
| | | | | | ぼうふら | 蟲 | 足 | 虫織 |

| | | | | | | | | |
|-----------------|------|------------|-----|-----|----|----|--------|------|
| えんどー | そらまめ | ささぎ ササギ | あずき | だいず | ひえ | あわ | とーもろこし | もろこし |
| | | | | | | | | |
| 隠元豆 緑豆 なたまめ 茨 蔓 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|----|---------|----|--|--------|-----|-----|------------|
| きび | むぎ | ひつじ(稽稻) | いね | | かやつりぐさ | つくし | すみれ | げんげ レンゲ |
| | | | | | | | | |
| 陸早稻 晚稻 赤穂米 | | | | | | | | |

方言書目抄 關東、中部地方

茨城方言集覽 茨城教育協會 明治三七、刊

下野訛 永野郁文堂 明治四三、刊(絶版)

東京語辭典 小峰大明 大正六、刊

上田市附近方言調査 上田中學校 明治四〇、刊

静岡縣方言辭典 師範學校 明治四三、刊

静岡市吉見書店發行 (金壹圓)

全國方言集 静岡縣警察部 昭和二、刊

方言、やつとかめ(愛知方言) 竹内向村、大正一〇、刊

岐阜縣方言 松平靜 明治三六、刊

大野郡方訛言集 明治三五、刊

大野郡口語法及音韻調査 郡教育會、大正五、刊

方言雜集 (一茶叢書第二編) 大正一五、刊

東京、古今書院發行 (金貳圓貳拾錢)

小谷口碑集(附、方言集) 小池直太郎、大正一一、刊

爐邊叢書、郷土研究社發行 (金壹圓)

八丈島方言 保科孝一、言語學雜誌一ノ二

遠江文典 松下大三郎 新國學

第五人倫

この部には家族、人品等に關する名稱を收めた。家族の名稱は自分の家族を指す場合と他人の家族を指す場合と違ふのが普通である、自分の子は「せがれ」「むすめ」でも他人の子は「坊ちゃん」「お嬢さん」である、假に之を自稱と對稱と云ふ言葉でわけたい。(その外「男の子」「女の子」と云ふやうな云ひ方もする、之は他稱と云ひたい。)

自稱と對稱とを區別して記載する爲に家族名のあるものは一語につき二行をあてた。

地方により家族に關する名稱の細かく發達してゐる地方と然らざる地方とある、又女からの呼稱と、男からの呼稱とが分れてゐる地方もある。

地方に特有な人名を集めたい。地方の習慣(例へば動植物の名を好む如き)や迷信に關係ある人名は特に注意したい、又女には二字名、三字名について地方的の好みもあるやうである。人品については「しわんぼう」「しまりや」の如き特殊な接尾語に地方的變化が多い。

標語欄
 片假名ア示シタノハ東京語デス。
 コノ形ヲ使用シナイ地方アハ抹消
 シテ下サイ。

父チチ (自)

オトイサマ
(敬)(對)

母ハハ (自)

オカイサマ
(敬)(對)

兩親リョウシン
フタオキヤ

祖父オジイサン

祖母オバアサン

補充欄
 下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
 タダケデス。之ニ拘泥セズ、特色
 アル方言ヲ補充シテ下サイ。

先 祖

繼 親
 養 父
 里 親

| | | | | | | | | |
|----------------------------|----------------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|----------------------|----------------------|------------------------|
| 會祖父 <small>ヒイオジイサン</small> | 會祖母 <small>ヒイオバアサン</small> | 伯叔父 <small>オオジサン</small> | 伯叔母 <small>オオバサン</small> | 兄 <small>アニ</small> ニイサン | 姉 <small>アネ</small> ネイサン | 弟 <small>オトト</small> | 妹 <small>イモト</small> | 兄弟 <small>ケイテイ</small> |
| | | | | | | | | |

姉妹

異母兄
ハラカワリノアニ

息子 (自)
セカシ

(對)
ゴシソク
ボウチヤシ

娘 (自)
ムスメ

(對)
オジヨ一サン

長男
チヨ一ナン
ソ一リヨ一

長女
チヨ一ジョ

次男以下

義 繼 養 養 里

弟 子 子 子 女 子

次女以下

末子
スエコ

孫
マゴ

曾孫
ヒコ

夫 (自)
オツト
テイシユ

(對)
ダンナサマ

妻 (自)
サイ
カナイ

(對)
オクサマ
オカミサン

夫婦
フイフ

玄 女 雲

孫 孫

| | | | | | | | | |
|------------|------------|-------------|-------------|-----------|---------------------|-----------|------------|-------------|
| 孤兒 ミナシゴ | 乳兒 チノミゴ | 女兒 オンナノゴ | 男兒 オトコノゴ | 子供 コドモ | 青年 セイネン ワカイシユ | 大人 オトナ | 老婆 オバサン | 老爺 オジイサン |
| | | | | | | | | |
| | | | | | 少年 少年 | | | |
| | | | | | 少女 少女 | | | |

| | | | | | | | | |
|------------|----------|----------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|
| 老人 トシヨリ | 女 オンナ | 男 オトコ | 友人 トモダチ | 分家 ブシケ | 本家 ホンケ | 嫡子 アトトリ | 血統 チスジ | 親類 シニルイ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | 親友 親友 | | 新家 新家 | | | |
| | | | 幼達 幼達 | | | | | |

双生兒フタゴ

隱居イシキヨ

主人シユジン

主婦シユフ

食客イッロク

奉公人ホウコウニン

女中ジョチュウ

下男ゲナン

乳母ウバ

針書小飯門車
妙生使焚番夫

子守コモリ

お世辭者オセツカ
ゴマスリ

吝嗇者ケチンボ

怠惰者ナマケモノ

放蕩者ドラクモノ

好色漢スケベイ

美人ベツピン

醜婦スベタ

醉漢ヨッパライ

儉約家
強慾者
不精者
朝寢坊
寒がりや
肥大漢
疔男男
小偏屈者
短氣者

饒舌者
オシヤベリ

轉婆女
オテシバ

財產家
カネモチ

滑稽家
ヒョウキンモノ

虛言者
ウソツキ

虛言
ウソ

馬鹿者
バカ

貧乏人

橫柄者

生意氣者

でしゃばりや

はにかみや

狡猾者

臆病者

大食漢

のんきや

小心者

特殊ナル姓名

命名ノ地方的習慣

方言書目抄 北陸地方、近畿地方

越佐方言集 田中勇吉 明治二五、刊(絶版)

佐渡方言集 矢田 求 明治四二、刊

佐渡新聞社發行

新潟方言さことば 幸田文時 大正一四、刊

富山縣入善區域方言集 區教育會 大正六、刊

富山縣方言 縣教育會 大正八、刊(絶版)

石川縣方言彙集 縣教育會 明治三四、刊

金澤方言集 木村 尙 明治四一、刊

若越方言集 福田太郎 明治三五、刊

天田、何鹿 三郡方言調査書 山口義明 明治四三、刊

加佐 京都府立第三中學校發行

地方方言集 度會郡教育會 大正三、刊

南紀土俗資料 森彦太郎 大正一三、刊

和歌山縣日高郡南紀土俗資料刊行會發行

兵庫のかたことば 明親小學校 明治四〇、刊

方言の調査と矯正方案 神戸眞陽小學校

大正一五、刊

浪花方言(寫本) 文政二、帝國圖書館藏

新撰大阪詞大全 天保一五刊、鈴鹿三七氏藏

世話類聚(大阪方言) 石濱純太郎氏藏

越中方言の地位 田村榮太郎 國語と國文學 四一號

第六 肢體 附 病名

| | |
|--|---|
| <p>標語欄</p> <p>片假名デ示シタノハ東京語デス。 コノ形ヲ使用シナイ地方デハ抹消シテ下サイ。</p> | <p>補充欄</p> <p>下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シタダケデス。之ニ拘泥セズ特色アル方言ヲ補充シテ下サイ。</p> |
| <p>頭 <small>アタマ ツムリ</small></p> | <p>後頭 <small>ひよめき</small></p> |
| <p>髮 <small>カミ</small></p> | <p>月代 <small>白髮</small></p> |
| <p>旋毛 <small>ツムシ</small></p> | <p>こめかみ <small>ほんのくぼ</small></p> |
| <p>雲脂 <small>フケ</small></p> | <p>頭蓋 <small>もみあげ</small></p> |
| <p>額 <small>シタエ</small></p> | |

| | | | | | | | | | |
|----------|------------|-----------|--------------|-----------|-----------|-----------|-------------|----------------|--------|
| 頭痛 ズツ | 腹痛 ハライタ | 赤痢 セキリ | 感冒 カビ | 病 ビョーキ | 黒子 ホクロ | 踝 クロブシ | 足心 フチフマズ | 腫 カカト | |
| | | | | | | | | | |
| 眩 暈 | | 胃 病 | 流行感冒 マラリヤ | 瘤 マ | 疣 リヤ | 痣 ヤ | 霜 そばかす | あかぎれ 霜 焼 | 足 甲 |

| | | | | | | | | |
|----------|---------|---------|---------|---------|-----------|--------------|------------|---------------|
| 腓 コムラ | 膝 ヒザ | 脛 ハギ | 股 モヒ | 足 アシ | 小指 コユビ | 無名指 クスリユビ | 中指 ナカユビ | 人差指 ヒトサシユビ |
| | | | | | | | | |
| 三 里 | 膝 蓋 | | | 足 指 | | | | |

方言書目抄

中國地方、四國地方

出雲言葉のかきよせ 縣教育會 明治二一、刊

出雲方言考 後藤藏四郎 昭和二、刊

松江市、郷語改善會發行 (金壹圓)

方言訛語調査書 吉備郡教育會 明治三七、刊

他所問答 布施御牆 (長周叢書、廣文庫)

出雲方言 高橋龍雄 國學院雜誌二二ノ一一

高知方言 沖水會雜誌

祖谷方言 小杉温村 好古雜誌二

鳥取郷土誌

島根縣仁多郡誌

岡山縣 眞庭、英田、久米、上道、上房、淺口

川上、和氣の各郡誌

廣島縣沼隈郡誌、加茂郡誌

讃州高松叢誌

徳島縣麻植郡誌、美馬郡郷土誌

愛媛縣新居郡誌

第七 住 居

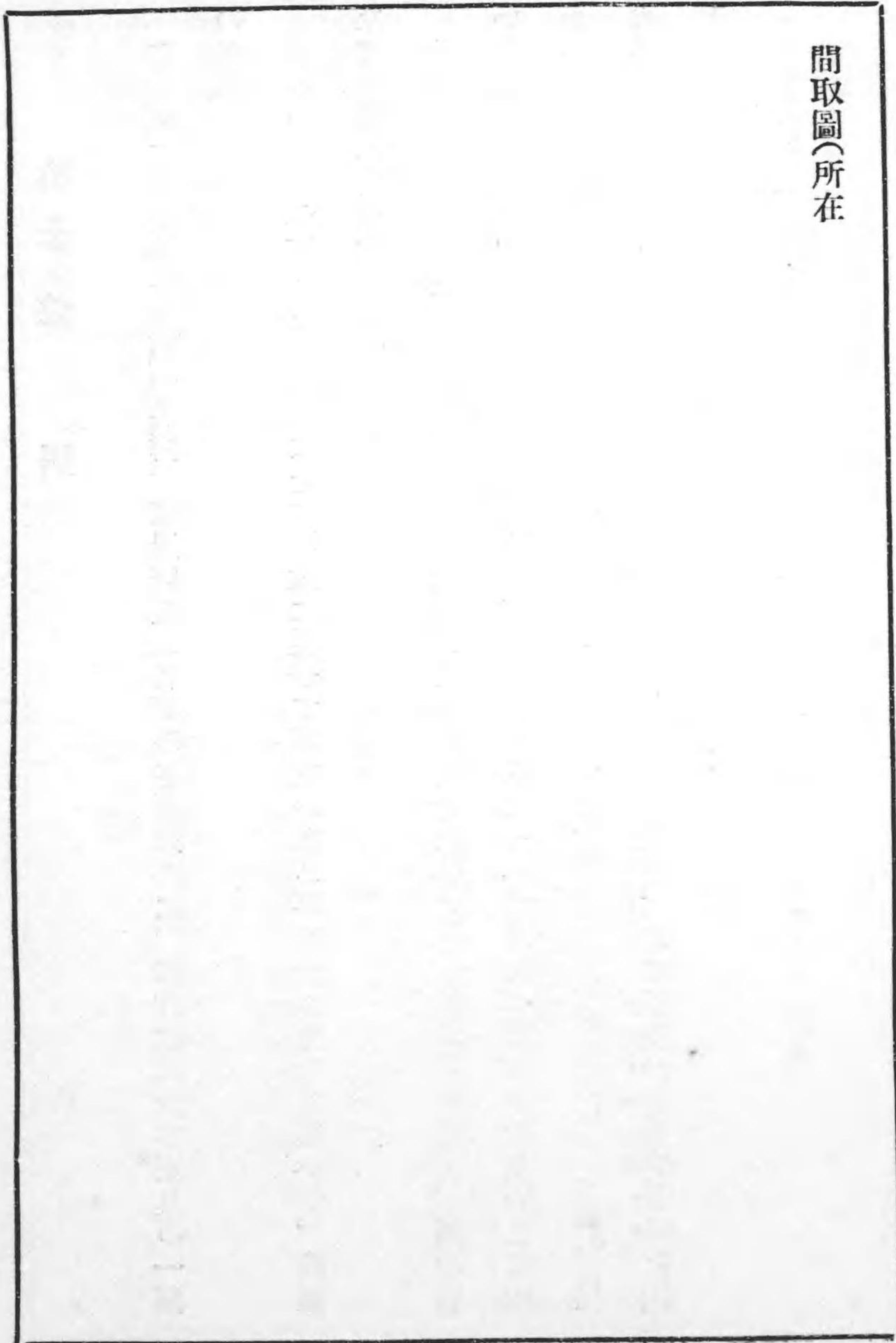
この部には建築の種類、家屋庭園の各部の名稱以外に、造作建具及び家具の一部の名稱を収めた。

家屋の構造が商店と住宅とはその用途に従つて相違のある事は云ふまでもないが、農家なども特殊な構造をもつてゐる。

また、所謂關東と關西とは各々特殊な様式を發達させてゐるし、雪の深い地方、風の強い地方には防雪、防風の設備が考へられてゐる。建築については先づ地方の代表的な間取り圖がほしい、之も模式的なものよりは、實際の例を忠實に寫した方が好ましい。それから、大黒柱と爐と竈と井戸の位置を明かに圖上に表したい、なほ、之に各室の方言的、名稱を記入する事と、屋根の形式を注記する事が大切である。

「日本民家史」、「日本の民家」などは参考書として推奨すべきものと思ふ。

間取圖(所在)



| | |
|---|---|
| <p>標語欄</p> <p>片假名ヲ示シタノハ東京語デス、 コノ形ヲ使用シナイ地方デハ抹消 シテ下サイ</p> | <p>補充欄</p> <p>下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ タダケデス之ニ拘泥セズ特色アル 方言ヲ補充シテ下サイ</p> |
| <p>神社<small>ジンジャ ヤシロ、オミヤ</small></p> <p>寺院<small>オテラ</small></p> <p>墓地<small>ボチ</small></p> <p>城<small>オシロ</small></p> <p>兵營<small>ヘイエイ</small></p> <p>農家<small>ノイカ</small></p> <p>商家<small>シヨカ</small></p> | <p>鎮守 烏居 拜殿 官署 學校 劇場 病院 警察 刑務所</p> <p>町屋 家敷</p> |

| | | | | | | | | |
|------------|-------------|-------------|------------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 細杷 マザライ | 草箒 クサボロキ | 竹箒 タカボロキ | 雪掻 ユキカキ | 塵取 チリトリ | 拂塵 ハタキ | 箒 ホロキ | 雑巾 ゾーキ | 布巾 フキン |
| | | | | | | | | |
| 熊手 | こいすき | 埃塵屑籠 | | | | | | |

住居

八五

| | | | | | | | | |
|------------|------------|----------|---------|-----------|---------|-----------|------------|------------|
| 踏臺 フミダイ | 漏斗 ジョウロ | 篩 フルイ | 枺 マス | 目箒 メザル | 箒 ザル | 束子 タワシ | 米櫃 コメビツ | 片手桶 カタテ |
| | | | | | | | | |
| 脚立 | ランプ | カテラ | 提灯 | | | | | |

八四

方言書目抄

九州地方

博多仁和加集(博多方言) 竹田秋樓 大正三、刊

新撰博多仁和加 中嶋源吉 大正七、刊

大分縣方言類集 共立教育會 明治三五、刊

長崎市史風俗篇(長崎方言集覽) 古賀十二郎編 大正一四、刊

長崎市役所發行

肥後方言と普通語、言葉改良の葉 明治四〇、刊

私立玉名郡教育會編纂

佐賀縣方言辭典 縣教育會 明治三五、刊

佐賀縣方言語典一斑 清水平一郎 明治三六、刊

鹿兒島ことば 戸田翠香 明治二二、刊

鹿兒島方言集 私立教育會 明治三九、刊

鹿兒島語法 村林孫四郎 明治四一、刊

鹿兒島語と普通語 町田佐熊 明治三八、刊

鹿兒島市仲町吉田書房發行

長崎縣三重村方言(露文) ホリワノフ 一九

一五?

對馬方言 小倉進平 國學院雜誌、二〇ノ一一

宮崎方言について 東條操 國語教育一三

ノ二

薩摩方言(英文) シュワルツ 亞細亞協會々報

四三

長崎方言(英文) サンソム 同 三八

第八 飲 食

この部には食品、飲料、調味料の名稱の外に食器の名稱を附載した。

食事は普通には三回であるが、農家などでは四回以上のところが少くない。この朝食、

午食、夕食以外の間食の名稱を調べたい。

地方には各地、特有な料理の名がある。之等も注意して集め、その料理法の大體を記したい。

節句、祭日、祝日等、所謂物日によつて特殊な食事を設ける事も各地に行はれてゐる、

この方面も興味ある研究である。之は料理の名と、その酒宴の名と併せて記録したいものである。

標語欄 片假名テ示シタノハ東京語デス、
 コノ形ヲ使用シナイ地方デハ抹消
 シテ下サイ

補充欄 下ニ舉ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
 タダケデス、之ニ拘泥セズ特色ア
 ル方言ヲ補充シテ下サイ

朝食

午前間食

午食

午後間食

夜食

就眠前食事

飯

強茶大栗松鳥
 飯飯飯飯飯
 飯飯飯飯飯

赤飯

粥

雑炊

握飯

温飩

餅

牡丹餅

搔餅

雑煮

小豆 奈良 茶 燒
 粥 茶 飯 飯
 餅 餅 餅 餅
 餅 餅 餅 餅

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|------------------------------|---------------------------|-------------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|-------------------------|-----|----|-----------|
| 醬油 <small>シヨウユ</small> | 麥こがし <small>ムギコカシ</small> | 煎餅 <small>センペイ</small> | 朝鮮飴 <small>チヨウセンヤノ</small> | 團子 <small>ダンゴ</small> | 汁粉 <small>シルコ</small> | 茶菓子 <small>チャクワシ イチャオケ</small> | 疊鰯 <small>タタミイワシ</small> | 昆布 <small>コブ</small> | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| たまり | | | 粽 | 羊羹 | 水飴 | 饅頭 | 干菓子 | 生菓子 | 餅菓子 | 菓子 | 若布 ひじき |

| | | | | | | | | | | | |
|--------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|------|-----|-----|
| 豆腐 <small>トウフ</small> | 氷豆腐 <small>コウリドク</small> | 雁擬 <small>ガンモドキ</small> | 干大根 <small>ホンダイコ</small> | 鹽鮭 <small>シオザク</small> | 干魚 <small>ヒモノ</small> | 雲丹 <small>ウンニ</small> | 數の子 <small>カズノコ</small> | 目刺 <small>メザシ</small> | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| ゆば | 焼豆腐 | 田樂 | 蒟蒻 | 寒天 | 鹽辛 | 鯛 | 海苔 | 干海老 | からすみ | 鱈の子 | 鮭の子 |

○地方特有の料理

第九服飾

この部には衣服の種類、地質、紋様、色目から衣服各部の名稱を初め、寢具、化粧品、手廻りの携帯品等をも便宜上收め、裁縫に關する名稱も附載した。

結髪の名稱の如きも、こゝに收めた。

衣服の種類は土地によつて相違がある。暖國と寒國とは云ふまでもなく、農村、漁村それ〴〵に特色がある。寒國の防寒具、特に雪袴雪沓の類は挿圖もほしい。

式服と仕事服の種類は特に注意して集めたい。帶の結び方の名稱なども採集したい。

標語欄

片假名テ示シタモノハ東京語デス、
コノ形ヲ使用シナイ地方デハ抹消
シテ下サイ。

補充欄

下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
タダケデス、之ニ拘泥セズ、特色
ノアル方言ヲ補充シテ下サイ。

衣服 キモノ

單衣 ヒトエモノ

浴衣 ユカタ

袴 アツセ

綿入 ワタイレ

襦袢 ジバン

胴着 ドイギ

帷子

丹前

どてら

布子

肌着

半天 ハンテン

羽織 ハオリ

筒袖 フツソデ

袖無 ソデナシ

晴着 ハレギ

常着 フダシギ

仕事着

寢衣 ネマキ

絹服 キヌヒ

ねんねこ
法被
ん)ちん)ちや

紋付
袴
裾模
振模
大漁服

| | | | | | | | | |
|--------------|------------|-------------|--------------|----------------|------------|---------|-----------|---------|
| 三尺帶 サンジャク | 腰帶 コシオビ | 伊達卷 ダテマキ | 單帶 ヒトエオビ | 腹合帶 ハラアワセオビ | 丸帶 マルオビ | 帶 オビ | 萌黃 モウキ | 青 アヲ |
| | | | | | | | | |
| 手手足 甲袋袋 | 細 帶 | 貝の口 | お太鼓結 やの字結 | 紫紺 藍 | 紫紺 藍 | 紫紺 藍 | 赤 とき色 | |

| | | | | | | | | |
|-------------|------------|-----------|--------------|-----------|-----------|----------|---------|----------|
| 綿服 モメンモノ | 縮 チジミ | 模様 モヨイ | 縞 シマ | 飛白 カスリ | 小紋 コモン | 無地 ムジ | 色 イロ | 黄 キイロ |
| | | | | | | | | |
| 麻 上服 | 毛織 モスリン | 縮緬 チヂミ | 天鵝絨 フランネル | セ ル | 盲鹿 縞子 | 白 黒 | | |

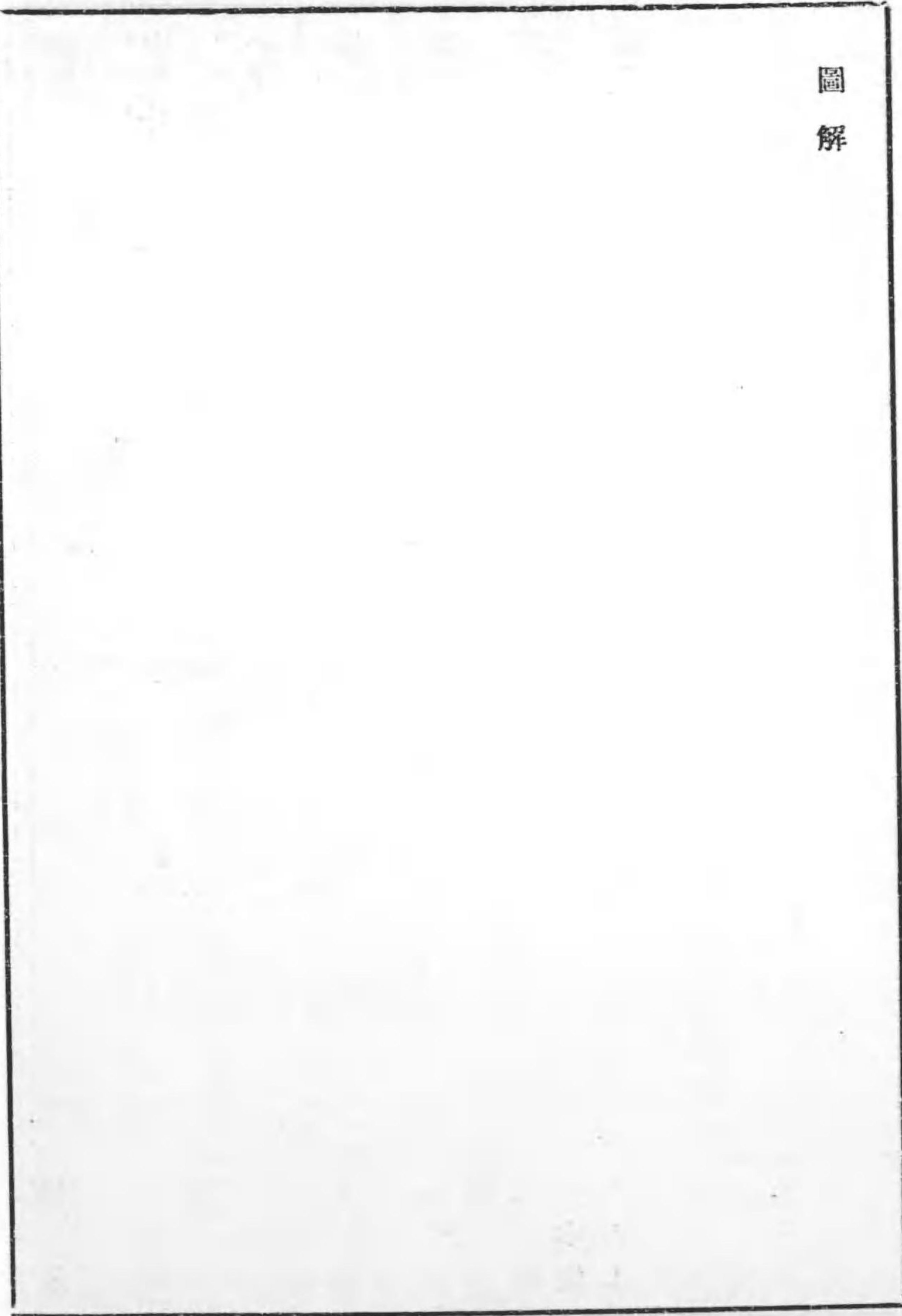
| | | | | | | | | |
|------------|--------------|--------|-----------|----------|----------|------------|----------------|---------|
| 脚絆 キヤハシ | 合羽 カッパ | 簀 ミ | 蚊帳 カキヤ | 枕 マクラ | 夜着 ヨギ | 抱卷 カイマキ | 蒲團 フトン | 裾 スツ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | 外 まは 套 | | 蚊 いぶし | | 座 布團 | 小 抱卷 | 夜 具 (やぐ) | 裾 廻し |

| | | | | | | | | |
|----------|---------|---------|-------------------|-----------|------------|------------|----------|---------|
| 袂 タモト | 袖 ソデ | 襟 エリ | 腰卷 コシマキ ユモシ | 褌 フンドシ | 股引 モモヒキ | 前垂 マエダレ | 褌 タスキ | 紐 ヒモ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| ふ き | 身 巾 | た け | ゆ き | 半 襟 | 越 中 | 猿 股 | 涎 掛 | |

| | | | | | | | | |
|---------------------|---------------------|--------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|--------------------------|-----------------------|------------------------|
| 鬚 <small>マゲ</small> | 杖 <small>ツエ</small> | 洋傘 <small>コイモリカサ</small> | 雨傘 <small>アメイサ</small> | 鼻緒 <small>ハナオ</small> | 爪皮 <small>ツマカワ</small> | ぼっくり <small>ボツクリ</small> | 足駄 <small>アシダ</small> | 駒下駄 <small>コマゲ</small> |
| | | | | | | | | |
| 鬚 | 兩番奴蛇目傘 | 天傘傘 | | | | | 日和下駄 塗下駄 表付下駄 | |

| | | | | | | | | |
|----------------------|----|-----------------------|------|----------------------|---------------------------|---------------------|-----------------------|----|
| 下駄 <small>ゲダ</small> | 雪沓 | 草鞋 <small>ワラジ</small> | 足半草履 | 草履 <small>ゾリ</small> | 竹子笠 <small>タケノコガサ</small> | 笠 <small>カサ</small> | 頭巾 <small>ズキン</small> | 山袴 |
| | | | | | | | | |
| | 雪駄 | 藁草履 | 麻裏 | | | 襟帽子卷 | 鉢子卷 | |

圖解



第十生業

この部には士農工商の各種の職業と、その職業に使用する用具類との名を収めた。近來、文化の進歩と共に所謂機械類が發明されて舊式の道具は一日／＼と驅逐されてゐる。従つて漁村でも農村でも多く新しい機械を使用してゐる。しかし、こゝには、なるたけ、舊來の道具の名を集めて見たい。

土地によつて職業が違ふ、商業都市あり、貿易港あり、鑛山地もあれば、養蠶地もある、漁村もあり、農村もあるわけである。採集地に關係のある職業に關する語をなるべく精細に補充欄に集めたい。

市場用語、獵人語彙、水上語彙、水産語彙、隠語集の如き特殊辭書は参考となる。

標語欄

片假名デ示シタモノハ東京語デ
ス、コノ形ヲ使用シナイ地方デハ
抹消シテ下サイ。

補充欄

下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
タダケテス。之ニ拘泥セズ特色ア
ル方言ヲ補充シテ下サイ。

勤人
ツトノニン

官吏
ヤクニン

警官
オマワリサン

軍人
ヘイタイサン

教師
ヒンセイ

神官
カンヌシ

神子
オミコサン

會社 銀行 探偵 弟子 氏家 壇妻 梵事 判事 檢護 辯護 文士 音家

僧侶
ボトサン

尼僧
アマサン

醫者
オイシヤサン

繪師
エシ

商人
アキンド

問屋
トシヤ

小賣
コウリ

仲買
ナカガヒ

市場 卸才 賣場 取子

| | | | | | | | |
|--------------|---------------|-----------|-----------|------------|-------------|------------|--------------------|
| 洋品商 トーブツヤ | 天秤棒 テンピンボウ | 行商人 | 八百屋 ヤヤ | 魚屋 サカナヤ | 雜貨商 ヨロズヤ | 顧客 オトクイ | 釣錢 オウツリ ツリセン |
| | | | | | | | |
| 肉汁 ニクジ | 粉ば コ | 藥下 ヤクゲ | 本駄 ホンダ | 豆腐 マメド | 乾物 カンモノ | 米屋 コメヤ | 吳服店 ウヅク |

| | | | | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|
| 店卸 タナオロシ | 賣出 ウリダシ | 金錢 ゼネ | 算盤 ソロバン | 暖簾 ノレン | 老舖 シニセ | 店舖 ミゼ | 小僧 コソウ | 番頭 バントウ |
| | | | | | | | | |
| 現掛 ゲンカ | 仕取 シケ | 賣代 ウリダイ | 帳勘 チヤンカン | 閉開 ツク | 開新 ヒラタ | 角店 カクテン | | |

現掛仕取賣代帳勘 閉開新角
金取拂引買價面定 店店店店

| | | | | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|-------------|----------------|-------------|-----------|---------------------|
| 鉋 カシナ | 手斧 テノノ | 鋸 ノコギリ | 職人 シヨクニン | 雇人周旋業 ケイイワシ | 賣春婦 インバウ | 娼妓 ジョロ | 雛妓 オシヤク ハンギョク |
| | | | | | | | |
| 鉋の道具箱 カシナのドウグイハコ | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--|------------|-------------|--------------|--------------|-----------|------------|----------|-----------|
| 藝妓 ゲイシャ | 酌婦 シヤクフ | 女郎屋 ジョロヤ | 藝者屋 ゲイシャヤ | 料理屋 リョウリヤ | 宿屋 ヤドヤ | 三介 サンスケ | 湯屋 ユヤ | 酒屋 サカヤ |
| | | | | | | | | |
| 待合 御茶屋 花杜氏 マヒ 御茶屋 花杜氏 マヒ 御茶屋 花杜氏 | | | | | | | | |

待合 御茶屋 花杜氏
マヒ 御茶屋 花杜氏
マヒ 御茶屋 花杜氏

生業

| | | | | | | | | |
|----------------|----------------|-----------------|----------------|----------|---------------|--|---------|---------------|
| 不漁 フリヨ イ | 大漁 タイヨ イ | 船卸 フナオロ シ | 船頭 センド イ | 海女 アマ | 漁師 リヨ シ | | 斧 オノ | 樵夫 キヨ リ |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 潜水夫 |

| | | | | | | | | |
|----------------|---------|---------------|---------------|----|----|----|--------------|----------------|
| 鳥鴉 トリモ チ | 絹 フナ | 鳥網 アマ ミ | 獵師 リヨ シ | 飯場 | 鑛坑 | 鑛脉 | 鑛夫 コ フ | 人足 ニン ソク |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 鑛山 |
| | | | | | | | | 弓矢鐵匣 砲 |

| | | | | | | | | |
|------------|----------|----------|--------|---------|---------|----------------|---------------|---------|
| 肥料 ヒリョー | 俵 タワラ | 吠 カマス | 箕 ミ | 杵 キネ | 白 ウス | 連枷 カラサネ | 稻扱 イナコキ | 鎌 カマ |
| | | | | | | | | |
| 堆肥 | 俵蓋 | | | | | 篩と きり 白白 | 拐す り 白白 | 熊手 |

| | | | | | | | | |
|---------|---------|-----------|-------------------|------------|------------|-----------|-----------|--------------------|
| 鋤 スキ | 鋤 クワ | 飢饉 キケン | 凶年 キヨネン フサク | 農年 ホーネン | 早乙女 ソトメ | 小作 コサク | 地主 ジヌシ | 農夫 ノイフ ヒヤクシヨ |
| | | | | | | | | |
| こまざらひ | 馬唐 鋤 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|-------------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 屠兒 <small>エダ</small> | 隱坊 <small>オンホ</small> | 乞食 <small>コジキ</small> | 強盜 <small>ゴトイ</small> | 追剥 <small>オイハギ</small> | 窃盜 <small>コソコソドロボイ</small> | 掏摸 <small>スリ</small> | 詐偽 <small>カタリ</small> |
| | | | | | | | |
| 皮革商 | | | | 板間稼 | 明巢規 | 懲役人 | 前科者 |

第十一 人 事

この部には出生から死亡までの人間一生の間に起る主要な事項を所謂冠婚葬祭の式などを中心として集めた。中には小兒の項に玩具遊戯を附載し壯年の項に遊藝や酒宴を併記したやうな無理がないでもないが、便宜上の處置と認めていたゞく。

従來の方言集には比較的、この部が閑却されてゐるが、民俗を知る爲にも、なるべく廣く採集したいものである。勿論、儀式の詳細などは此の小冊子では記録は困難であらうが名稱とその略説だけでも後人の研究の手掛りとなる事は確かであらう。

結婚、葬禮は殊に各地方によつて儀式が頗る區々である、従つて特殊な方言が多いやうである。

| | | | | | | | |
|--|-----------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|-------------------------|---|
| <p>標語欄 片假名ア示シタノハ東京語デス、 コノ形ヲ使用シナイ地方アハ抹消 シテ下サイ</p> | | | | | | | |
| <p>補充欄 下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ タダケデス、之ニ拘泥セズ特色アル 方言ヲ集メテ下サイ</p> | | | | | | | |
| 誕生 <small>タシゴロ</small> | 産湯 <small>ウツユ</small> | 臍緒 <small>ホソノオ</small> | 産室 <small>サンシツ</small> | 産婦 <small>サンブ</small> | 産衣 <small>ウツギ</small> | 三日祝儀 <small>ミツツ</small> | |
| | | | | | | | 安産産産 難産産 初産 三胎 三胎 まくり 乳つけ 命見 産見 乳婦 孫祝 四膳 酒湯 |

| | | | | | | | |
|---|----------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|-----------------------|---|
| <p>灸<small>シヤ</small> 初<small>チ</small> 正月<small>ツキ</small> 始<small>ハジメ</small></p> | | | | | | | |
| 七夜祝儀 <small>シヤチ</small> | 日立 <small>ヒダチ</small> (肥立) | 宮詣 <small>ミヤマイリ</small> | 氏神 <small>ウジガミ</small> | 産土神 <small>ウツスナ</small> | 食初 <small>クイゾウ</small> | 嬰兒 <small>アカゴ</small> | 襦袢 <small>オシロイ</small> |
| 七五三祝儀 <small>シチゴサン</small> | | | | | | | |
| | | | | | | | 袴 <small>ハカマ</small> 紐 <small>ヌイ</small> 髪 <small>カミ</small> 初 <small>ハジメ</small> 節 <small>フシ</small> 旬 <small>ジユン</small> 置 <small>オキ</small> 着 <small>キ</small> |
| | | | | | | | 破 <small>ヤブ</small> 覽 <small>ラン</small> 弓 <small>ユミ</small> 風 <small>フウ</small> 車 <small>クルマ</small> でん <small>でん</small> 鼓 <small>カ</small> 犬 <small>イヌ</small> 張 <small>テ</small> 子 <small>コ</small> 達 <small>タチ</small> 摩 <small>マ</small> 起 <small>オキ</small> 上 <small>ウヘ</small> 小 <small>コ</small> 法 <small>ホウ</small> 師 <small>シ</small> |

玩具 オモチャ

おしゃぶり オシヤブリ

人形 ニンギョウ

遊戯 アスビゴト

鬼事 オニゴツコ

隱鬼 カクレンボ

走競 カケワコ

飯事 イマゴト

片足飛 チンチンモガモガ

十六むき

双六
カルタ
手品
花火

姉様事
塵隠
戦争
陣取
石陣

石拳 イシケン

蟲拳 ムシケン

根木

竹馬 タケウマ

紙鳶 カミトビ

獨樂 ドクガク

毬 マリ

御手玉 オテダマ

追羽根 オイバネ

入及落卒優劣試
學第第業等等驗

| | | | | | | | | |
|----------------------------|-----------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|----------------------------|--------------------------|---------------------------|-----|
| 祝言 <small>シユイゲン</small> | 待女郎 <small>マチジョウ</small> | 輿入 <small>コシイレ</small> | 嫁人 <small>ヨメイリ</small> | 結納 <small>ユイナ</small> | 媒酌人 <small>ナコウジ</small> | 見合 <small>ミアイ</small> | 婚姻 <small>コンイン</small> | 若衆宿 |
| | | | | | | | | |
| 水掛祝 | 色直し | 手引き | | 角かくし | 綿帽子 | 荷物送 | 柳樽 | 扇子納 |
| | | | | | | | | 聞合せ |

| | | | | | | | |
|-----|---------------------------|----|--------------------------|----------------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|
| 若者入 | 元服 <small>ゲンブク</small> | 成年 | 天狗 <small>テング</small> | 神隱 <small>カミカクシ</small> | 鞆鞆 <small>ブロンゴ</small> | 謎 <small>ナゾナゾ</small> | 錦繪 <small>ニシキヒ</small> |
| | | | | | | | |
| 齒黒め | 除隊 | 入營 | 徴兵 | 肩上を取 | | | 羽子板 |
| | | | | | | | 羽子 |

親類盃
シニルイサカズキ

床盃
トコサカズキ

衣裳披露

里歸
サトカエリ

妊娠
ニンシン

惡阻
ツワリ

着帶祝
オビノイワイ

嫉妬
ヤキモチ

喧嘩
ケンカ

初朝
拜歸

岩田帶

離縁
リエン

遊藝
ユイゲイ

笛
フエ

踊
オドリ

酒宴
サカモリ

遊山
ユサン

沙干狩
シヤカヒ

遠足
エンソク

祭
マツリ

離縁狀

琴 三味線
太鼓 八鼓
尺八
謠 舞 茶 湯
生 茶 湯
碁 碁
將 碁
山 遊
野 遊
花 見
雪 見
茸 狩

| | | | | | | | |
|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|
| 山車 <small>ダシ</small> | 祭前夜 <small>ヨミヤ</small> | 縁日 <small>エニチ</small> | 見世物 <small>ミセモノ</small> | 輕業 <small>カルワザ</small> | 厄年 <small>ヤドシ</small> | 參宮 <small>サングー</small> | 大師參 <small>ダイシマイリ</small> |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 御神輿 | 御神酒所 | 踊屋臺 | 山鉾 | 初老 | 門出 | 坂迎へ | 詣六阿彌陀 |

| | | | | | | | |
|--------------------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|----------------------------|----------------------|
| 還曆 <small>ホシケガヘリ</small> | 怪我 <small>ケガ</small> | 老病 <small>ロービョウ</small> | 看護 <small>カンゴ</small> | 禁厭 <small>マシナイ</small> | お百度參 <small>オシヤクド</small> | 跣足參り <small>ハダシマイリ</small> | 死亡 <small>シボ</small> |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 年祝 | 古稀 | 喜壽 | 米壽 | 狐つき | 犬神 | 牛蒡種 | 祈禱 |

年祝 古稀 喜壽 米壽 狐つき 犬神 牛蒡種 祈禱
 末期水 枕屏風 枕團子 日祈參

| | | | | | | | | | |
|------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------|---|
| 怪物 <small>バケモノ</small> | 人魂 <small>ヒトダマ</small> | 幽霊 <small>ユレイ</small> | 法事 <small>ホウジ</small> | 逮夜 <small>タイヤ</small> | 新盆 <small>ニイボン</small> | 供養 <small>クヨウ</small> | 位牌 <small>イハイ</small> | 一周忌 <small>イチシユウキ</small> | 年忌 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | 亡者 鬼火 大入道 三ツ目 一ツ目小 僧 ろくろ首 木精 |

第十二年中行事

この部には年中行事に關する名稱を收めた。大體は月の順序に排列してあるが月の名を特に掲げてない、之は舊曆と新曆との相違から誤解を起す事を恐れた爲である。

年中行事の中で、農家に行はれるものだけは、之を別にして最後に掲げてある。

採集者は行事の名の下に月日を記入するやうにしたい、但し、新曆か舊曆かは必ず初に注記する事。その地方にない行事は標語から抹消する事。

地方に特殊な行事を簡単な説明と共に脱漏のないやうに補充したい。

年中行事については歳事記の類が参考となる。

○行事ノ下ニ月日ヲ記入スルコト、又其地方ニナキ行事ハ標語ヲ抹消スルコト

| | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|--|--|--|--|
| <p>標語欄 片假名ヲ示シタノハ東京語デス、 コノ形ヲ使用シナイ地方デハ抹消 シテ下サイ</p> | | | | | | | | | |
| <p>補充欄 下ニ舉ゲテアル單語ハ參考ニ示シ タダケデス、之ニ拘泥セズ特色アル ル方言ヲ集メテ下サイ</p> | | | | | | | | | |
| 年玉 | 屠蘇 | 年男 | 松飾 | 若水 | 廻禮 | | | | |
| <p>庭懸門禮輪×焚齒福食蓬 縮鯛松帳飾飾初固茶積菜</p> | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|------------------------------------|----|----|----|----|-----|-----|------|------|--|--|
| 初湯 | 書初 | 賣初 | 初荷 | 初夢 | おせち | お三日 | 六日年越 | 消防出初 | | |
| <p>らそ替 初初初 寶 松 話 卯寅子 船 囉 初</p> | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------------|---------------|----------------|----------------|--------------|--------------|---------------|--------------------|-------------|-----------|------------|-------------|----------------|------------|----------------|
| 七草粥 ナナクサ | 惠方詣 エホーマイリ | 松之内 マツノウチ | 藏開 クラビラキ | 鏡開 カガミビラキ | 土龍打 ツクリ | 左義長 サギチヨイ | 繭玉 マユダマ | 十五日小豆粥 ジューゴニチガユ | | | | | | | |
| 初琴平 ハツシラ | 十日戎 トウジ | 帳祭り チヤウマツリ | 手かけそめ テカケソメ | 古日年越 コヒトシコシ | 吉書揚 キツシヨウ | とんど トント | おんべ焼 オンベヤキ | 飾團子 カザリダマ | 穂長汁 ホノチヂ | 若年 ワカシ | 上元 ウラハツ | 小正月 コシヨウ | ほととぎす ホトトギス | 歳日 トシノヒ | 家祈禱 イヘノイタナヒ |

| | | | | | | | | |
|-------------|----------------|----------------|-------------------|----------------|-------------|------------|------------|-----------------|
| 粥杖 カシ | 藪入 ヤブイリ | 十八粥 ジューハチガユ | 二十日正月 ハツカシヨウガツ | 大寒 ダイカン | 小寒 シヨウカン | 節分 セツブン | 豆撒 マノマキ | 初午 ハツシマ |
| 割かけ ワキカケ | 八幡参 ヤチハチマツリ | 厄神参 ヤクシノマツリ | 骨正月 ハネシヨウ | 廿日團子 ニジュウダマ | | | | 鬼の目つき オニノメツキ |

おこと

おこと汁

涅槃

彼岸(春)

雛祭

菱餅

更衣

卯月八日

灌佛會

二日灸

いただき餅

日迎へ

日送り

桃節句

雛市

れんど

峰入

甘茶

八十八夜

端午節句

武者人形

柏餅

菖蒲酒

菖蒲湯

入梅

夏至

花御堂

天道花

竿の花

女の家

菖蒲飾

印地打

粽

薬玉

薬獵

競馬

祇園入

祇園入

御輿洗

川開

川開

| | | | | | | | | | |
|--------------------|------------|--------------|------------------|---------------|--------------------|------------|------------|--------------|--------------|
| 盂蘭盆 ウラボン ネボン | 草市 クサイチ | 土用干 ドヨイボシ | 土用丑日 ドヨイノウシノヒ | 土用入 ドヨイノイリ | 四萬六千日 シマンロクセンニチ | 七夕 タナバタ | 大祓 オハライ | 半夏生 ハシゲシヨ | 川祭 カハヒ |
| | | | | | | | | | 御田講 ミタノコウ |
| | | | | | | | | | 水餅 ミヅヒ |
| | | | | | | | | | 水室 ミヅム |
| | | | | | | | | | 鴈餅 カニヒ |
| | | | | | | | | | 嘉定 カサマ |
| | | | | | | | | | 茅輪 チガハ |
| | | | | | | | | | 觀音參 クワンオン |
| | | | | | | | | | 虫干 ムシノヒ |

| | | | | | | | | | |
|-------------|---------------|------------|------------|------------|------------|-------------|--------------|-----------------|-----------------|
| 中元 ナユイケン | 盆燈籠 ボンドウロウ | 棚經 タナギヨ | 迎火 ムカイヒ | 送火 オクリヒ | 施餓鬼 セガキ | 盆踊 ボンオドリ | 地藏祭 ジヤクサヒ | 二十六夜 ニジュウロクヤ | 佛迎へ ブツムカヒ |
| | | | | | | | | | 精靈迎 セイレイムカヒ |
| | | | | | | | | | 精靈棚 セイレイタナ |
| | | | | | | | | | 餓鬼佛 ウラガミブツ |
| | | | | | | | | | 盆勘定 ボンカンテイ |
| | | | | | | | | | 墓參 カバネ |
| | | | | | | | | | 精靈流し セイレイナシ |
| | | | | | | | | | 二十日盆 ニジュウヒボン |
| | | | | | | | | | 月待 ツキマツ |

| | | | | | | | | |
|------------------------|-----------------------------|--------------------------|---------------------------|-----|---------------------------|--------------------------|-----------------------|-------|
| 八朔 <small>ハツサク</small> | 二百十日 <small>ニヒヤクトウカ</small> | 十五夜 <small>ジューゴヤ</small> | 彼岸 <small>ヒガン</small> (秋) | 菊節句 | 十三夜 <small>ジューサンヤ</small> | 神送り <small>カミオクリ</small> | 立猪 <small>イノコ</small> | とおかんや |
| | | | | | | | | |
| 田實節 | 二百二十日 | 芋名月 | | 重陽 | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------------------|-----------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|----|-----|--------------------------|-----|
| 十夜 <small>オジヨイヤ</small> | 日待 <small>ヒマチ</small> | 御會式 <small>オエシキ</small> | 惠比壽講 <small>エビスコ</small> | 輔祭 <small>フイゴマツリ</small> | 宮參 | 大師講 | 西の市 <small>トリノマチ</small> | 報恩講 |
| | | | | | | | | |
| 爐開き 炬燵切 | 御影供 誓文拂 | 太子講 味噌たき | 稻荷祭 | | | | | 柚湯 |

| | | | | | | | | |
|---------------|------------------|--------------|-------------|--------------|-------------|------------|--------------|----------------|
| 冬至 トウジ | 乙子朔日 オトコノツイタチ | 出代 デカワリ | 事始 コトハジメ | 年の市 トシノイチ | 煤拂 ススハライ | 餅搗 モチツキ | 大晦日 オヘミツカ | 年越蕎麥 ハシコロソバ |
| | | | | | | | | |
| 乙子餅 オトコノモチ | 臘八 ラハチ | 針供養 ハリケツギ | | | | | 除年 オヘトシ | 歲暮 トシノキリ |

| | | | | | | |
|--------------|------------|-------------|---------------|---------------|-----------------|--------------------|
| 百八鐘 ヒヤクハチ | 追儺 ツイナ | 厄拂 ヤクハライ | 甲子待 キノエネマチ | 庚申待 コトシシマチ | 山神祭 ヤマノカミマツリ | 道祖神祭 ミチノセノカミマツリ |
| | | | | | | |
| 大歳 オホトシ | 懸取 カケトル | 暮勘 クソク | 大岡 オホオカ | | | |

肥料初

苗代作

溝普請

種蒔タネマキ

田植タウエ

田植祝

草取クサトリ

虫除

虫送ムシオクリ

鳥小屋

持そめ

さびらき
さのぼり
さなぶり
御器洗

雨乞アメゴヒ

水落

刈入カライレ

刈上祝

稻扱イネコキ

粃磨モミスリ

俵入タワライレ

雨水
祝論

方言書目抄 琉球地方

沖繩對話 縣學務課 明治一三、刊
 琉球語典 仲本政世 明治二九、刊
 琉球語便覽 伊波普猷 大正 五、刊
 南島方言資料 東條操 大正一二、刊
 東京帝國大學、京都帝國大學圖書館藏
 探訪南島語彙稿 宮良當壯 大正一五、刊
 郷土研究社發行(謄寫版、實價十圓)
 古琉球(附録混効驗集) 伊波普猷 明治四〇、刊
 先島の研究 比嘉重徳 大正一三、刊
 琉球語研究資料 田島利三郎
 琉球人の見た古事記と萬葉 奥里將建 大正十五、刊

中山傳信録 徐葆光 康熙六〇、刊
 海東諸國記 申叔舟 弘治 一四、刊

英琉語彙(英文) クリッフォード 一八一八、刊
 琉球語文法及辭書(英文) チャンパレン 一八九五、刊(亞細亞協會々報三三ノ別冊)

琉球語就中八重山語の研究 宮良當壯 國學院雜誌 二九ノ七

琉球語の母韻統計 伊波普猷 民族一ノ一

アヤゴの研究 ネフスキー 民族二ノ一

南島方言研究 東條操 國語教育 一、一〇

琉球語の體系考察 奥里將建 國語國文の研究 二ノ六

代名詞

(表中ノ語ノ中、使用シナイモノハ抹消シ、特殊ノ方言ヲ補充スルコト)

| 人代名詞 | 目上 | | 同輩 | | 目下 | |
|------|-------------|--------------|--------------|-----------|---------------|---|
| | に | に | に | に | に | に |
| 自稱 | ワタクシ、テマイ(男) | ワタシ、ボク(男) | ワタシタチ、ボクラ(男) | オレ(男)、ワタシ | オレタチ(男)、ワタシタチ | |
| | ワタクシドモ、 | | | | | |
| 對稱 | アナタサマ | アナタ、キミ(男) | | オマイ | | |
| | アナタカタ | アナタカタ、キミラ(男) | | オマイタチ | | |

| 方 角 | 場 所 | 事 物 | 人 | | | 指示代名詞 |
|------------|--------|--------|---------|----------------|--------|-------------|
| | | | 卑 | 平 | 敬 | |
| コ)コ コチラ | ココ、 | コレ | コレ、コイツ、 | コノカタ、コノ ヒト、 | コノオカタ、 | 近 稱 |
| ソ)ソ ソチラ | ソコ、 | ソレ、 | ソイツ、 | ソノカタ、ソノ ヒト、 | ソノオカタ、 | 中 稱 |
| ア)ア アチラ | アスコ、 | アレ、 | アレ、アイツ、 | アノカタ、アノ ヒト | アノオカタ、 | 遠 稱 |
| ド)ド ドチラ | ドコ、 | ドレ、 | ダレ、ドゥツ、 | ドノカタ、ドノ ヒト | ドノオカタ、 | 不 定 稱 |

形 容 詞

この部には形容詞を文語の久活の形容詞、志久活の形容詞、形容動詞の順で五十音順に
 排列してある。その外に最初に活用形の調査の爲に四頁をさいた。

形容詞の活用形は東北地方や九州などには特別な形式がある。特に九州の「善か」の形式
 は周知のものである。又「善いば」「善いども」など「けれ」の形を使はない地方もある。
 「四角い」「四角だ」の如きも地方によつて二形式を併用する處と其一方を使用する處と
 ある。

形容詞の語尾には注意すべき方言形式がある。「せわしない」「すっぱい」「まるっこい」
 のやうな語尾は地方的なものである。この例を久活の形容詞の次に集めてある。

形 容 詞

形容詞活用

次ノ東京語ヲ、方言ノ云ヒ方ニ改メ、句ノ下ニ全部片假名ヲ記入スルコト。
之ハ活用形ノ變化ヲ調ベルタメデスカラ、ナルベク、同ジ形容詞ヲ使ツテ
下サイ。

| | |
|--------|----------|
| 此處は善い | 静でない |
| 此處は涼しい | 四角くない |
| 此處は静だ | |
| これは四角だ | 善うございます |
| | 涼しうございます |
| 善くない | 静でございます |
| 涼しくない | 四角うございます |

| | |
|--------|-------|
| 善くなった | 四角だらう |
| 涼しくなった | 善かった |
| 静になった | 涼しかった |
| 四角くなった | 静だった |
| | 四角かった |
| 善からう | |
| 涼しからう | 善い處 |
| 静だらう | 涼しい處 |

形容詞活用

| | |
|--------|--------|
| 静な處 | 涼しければ |
| 四角い處 | 静かなら |
| 善いのです | 四角いなら |
| 涼しいのです | 善いけれど |
| 静なのです | 涼しいけれど |
| 四角いのです | 静だけれど |
| 善ければ | 四角いけれど |

| | |
|------|---------|
| この本 | こんなになった |
| その本 | そんなになった |
| あの本 | あんなになった |
| どの本 | どんなになった |
| こんな本 | |
| そんな本 | |
| あんな本 | |
| どんな本 | |

標語欄

片假名テ示シタノハ東京語デス、
コノ形ヲ使用シナイ地方デハ抹消
シテ下サイ。

補充欄

下ニ擧ゲテアル單語ハ參考ニ示シ
タダケデス、之ニ拘泥セズ特色ア
ル方言ヲ補充シテ下サイ。

暑い
アツイ

痛い
イタイ

甘い
ウマイ

五月蠅い
ウルサイ

多い
オオイ

大きい
オオキイ

重い
オモイ

明るい
荒い
厚い
遅い

面白い
オモシロイ

可愛い
カワイイ

辛い
カライ

痒い
カユイ

焦臭い
キナクサイ

黄い
キイロイ

臭い
クサイ

煙い
ケムイ

濃い
コイ

堅い
軽い
暗い
心易い
かったるい
くすくすたるい

